

Hitachi Virtual Storage Platform One SDS Block 提供サービスにより、業務の運用が容易となり、「使用機器の消費電力」と「情報システム部門の作業工数」を削減  
(CO<sub>2</sub>排出量 26%削減 (\*1)参照)

■お客さまの課題

- ①ストレージごとの運用で、ディスク利用率に差があり、電力消費量が多かった。
- ②ストレージごとの運用で、管理がサイロ化し煩雑なため、工数が増えていた。

■機能単位：社内システムの運用管理において、ストレージ増設を4回/年 行う業務

導入前

ストレージ増設業務

システムごとにストレージを所有し、リソース追加

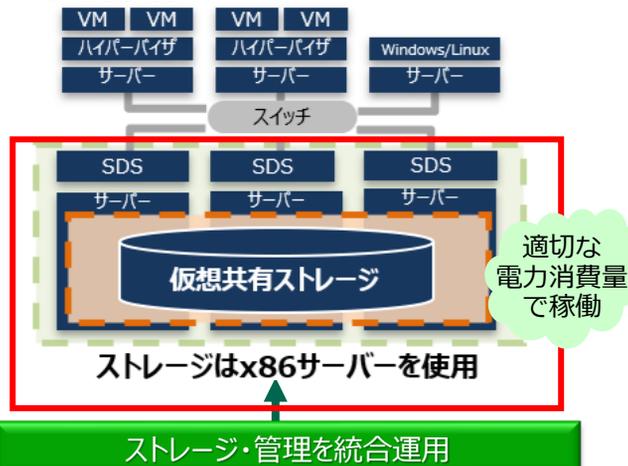


情報システム部門

管理がサイロ化し煩雑  
⇒運用管理工数大

導入後

ストレージ増設業務

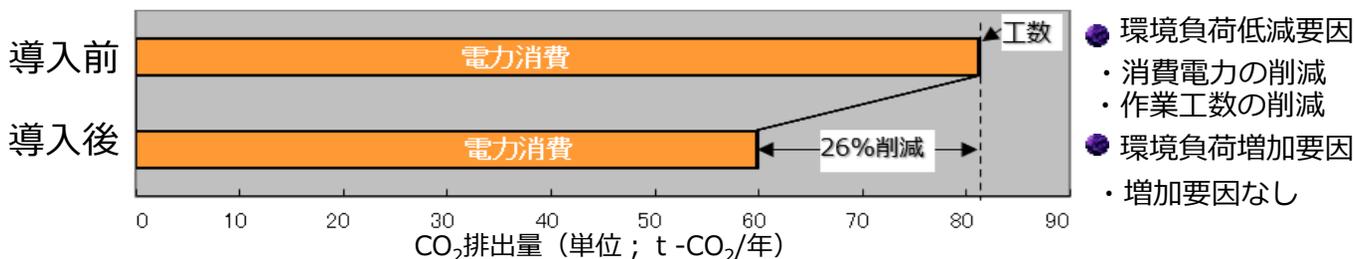


情報システム部門

運用が一元化され簡素化  
⇒運用管理工数削減

■効果

- ①ストレージ集約リプレースに伴う電力削減により環境負荷を低減。
- ②サービス導入の結果、ストレージの運用を一元化でき、簡素化したことで運用工数の削減。



(\*1) CO<sub>2</sub>排出量：26%削減 (21t-CO<sub>2</sub>/年削減)

- ・環境負荷要因は評価条件や評価モデルにより値が異なります。評価モデルのシステム構成はお問い合わせ下さい。
- ・本評価は、(株)日立製作所のCO<sub>2</sub>算定手法であるSI-LCA(\*2)を使用し、2024年12月時点の情報で使用ステージを評価対象として算定しています。

(\*2) SI-LCA : System Integration-Life Cycle Assessment

2006年3月に日本環境効率フォーラム(現・LCA日本フォーラム)が発行した「平成17年度 情報通信技術(ICT)の環境効率評価ガイドライン」に準拠した手法です。

(\*3) 本資料のうち、サーバーやサーバー内蔵SSDの追加サポートは個別見積となります。